

Case Study

支部ケース・スタディ

近畿支部

本とつながる・本とつなげるプロジェクト 『つなぶっく』

(株)あいコムこうか



総務部

奥村 悠

選書会をやりたい！

2018年のある日、当社の中邨雅明代表取締役(以下 代表)からの急な呼び出しがあり、そこで唐突に一言「奥村、選書会やってみーひんか？」。

選書会とは、いくつかの本の中から、子どもたちが実際に手に取り、読みたいと思う本を選ぶ催しです。選書に子どもたち自らが参加することで、書籍に慣れ親しむことができ、学力向上にも繋がる効果があると、全国各地で開催されています。…と、今ならスラスラとお答えできますが、当時の私は「それ、なんですか？」。

当社が設立されて6年が過ぎ、代表は『地域を元気にしたい』地域に喜ばれることがしたいという強い想いを持っておられました。その想いを何とかカタチにできないかと模索されたところ、『選書会を行い、市内小学校の図書室へ本を寄贈する』というアイデアを思いついたとのこと。そしてその実行役として、私に話が持ちかけられたのです。

選書会の仕組みを考える

選書会について、調べれば調べるほど不安が募りました。『どうやって実施するの？ 方法は？』。なぜならば、他の事例は全て本屋さん主導で実施されているものばかり。ましてや業界に全く精通していない私が、一体どうやってそれをカタチにしていけばいいのか、全く見えない状態でした。

そこで地元の書店組合を通じて、市内の大型書店に協力をお願いすることに。書店さんは取引のある出版社と協力し、実施方法や書籍の取り扱いについてサポートしていただけることになりました。

次に資金集め。当社のみで実施するのではなく、市内の他企業から賛同を募ることにしました。目標金額は24万円。約100冊を寄贈することを目標にしました。また、賛同して頂きやすいように、当社自社番組で企業CM(静止画)を流す、という特典を付加しました。

最後に実施校の選考です。こちらは市教育委員会に協力を依頼し、このプロジェクトにご協力頂ける小学校の中から、甲賀市立水口小学校を選んで頂きました。

社内でもプロジェクトを始動しました。発案者の代表をリーダーとし、賛同金集めは営業企画課、CM制作は放送課、と各課に役割を分担し、メンバーを1名ずつ選出しました。私はプロジェクトの事務局と、選書会実行を担うことになりました。

『つなぶっく』誕生

このプロジェクトを任された時から、私の中には、ある想いがありました。『子どもたちに本を好きになってもらいたい。本を通じて、いろんなことに興味を持ち、たくさんのことを学んでもらいたい。本が子どもたちにとって、身近な存在であってほしい』と。そして、子どもたちと本をつなげるのは、私たちの役割だと考え、この



『つなぶっく』ロゴ

プロジェクトを『つなぐ』と『BOOK』を掛け合わせた、『つなぶっく』と命名しました。こうして、当社だけでなく地元企業と協力し合い、子どもたちと本をつなげるプロジェクト=『つなぶっく』が誕生しました。

2018年11月、いよいよ選書会！

小学校や書店、出版社との協議を重ね、2018年11月28日、水口小学校5年生59名を対象に選書会を実施することになりました。小学校には1時限(45分)の授業を割いて、初めの15分をレクチャーや市立図書館司書による本の魅力についてのお話、残り30分を選書会に充てて頂きました。



2018年11月に、初めて選書会を開催した水口小学校

当日は歴史や化学、スポーツ、食、小説など多様なジャンルから426冊が並べられました。どれも書店で人気のある本ばかり。児童はそこから3冊を選び、投票用紙に書き込むというルールです。友達と一緒に選ぶ子、誰も選んでいない本を敢えて選ぶ子、自分の興味のあるジャンルばかりを選ぶ子…などなど。初めは、恐る恐る表紙の絵や本の帯を見て選別していた子たちも、次第に手にとり、ページをめくるなどして選ぶようになりました。終盤、それまでざわざわしていた場が静かになりました。選書が終わった子どもたちが、本に夢中になってその場に座り込み、読み入っていたためです。その光景を見た私は、『つなぶっく』本来の目的を果たせたような気持ちになりました。

有り難いことに、賛同金は目標金額を大幅に上回る額を集めることができ、翌年の1月21日には、小学校へ233冊もの本を寄贈することができました。

翌年の2019年度は2校へ

年度が変わり、2019年度は実施校を2校に広げることになりました。実施内容も選書会だけでなく、子どもたちに物語や空想の世界を楽しんでもらい、さらに本への興味を持ってもらえるようにと、紙芝居上演を併せて行うことに。これには県内外で活躍され、『夢屋商店 夢屋きらく・のんき』として、昔ながらの紙芝居を続けておられる、谷田昌蔵さん・教子さんご夫妻にご協力を頂けることとなりました。

2019年9月12日は甲賀市立大野小学校(全校生徒115名)、翌日の9月13日には同市立油日小学校(全校生徒150名)にて、『つなぶっく』が行われました。両校とも、45分授業の内、前半20分で紙芝居上演を、後半



2019年9月に選書会を開催した大野小学校



2019年9月に選書会を開催した油日小学校

25分で選書会というスケジュールを、低学年と高学年に分けて行いました。

上演が始まったとたん、子どもたちの興味が紙芝居に注がれていきます。大きな声で笑ったり、クイズに答えたり、声や音に驚いたり、皆夢中です。じっと静かに耳を傾け、物語の世界に入り込んでいる姿もありました。上演後は、「もっと見たかった!」という声が次々と挙がりました。選書会ではしおりを一人3枚持って、読みたいと思う本に差し込んでいきます。中には、「サッカーが好きだから、サッカーの本探して」「歴史の本が読みたい」「生き物の本はどこ?」と、選書を手伝ってほしいという子もいて、私も一緒に、宝探しのように本を選んでいきました。

大変有り難いことに、今年度も多くの賛同企業が集まり、両校併せて計355冊を寄贈させていただきました。



『つなぶっく』開催のために作成した、児童・保護者向け案内文

地域に元気を生み出す。そしてケーブルテレビの役割とは?

地域が持つ力を活かし、それらの点と点を繋げ、共に『地域に元気を生み出す』。この役割は、地域に密着してサービス提供を行っているケーブルテレビ事業だからこそできる役割だと感じています。

『つなぶっく』を始めるにあたり、社内より「この活動をやる意味は?」「社の利益に繋がるのか」という声が挙がったのも事実です。

CSRが叫ばれる昨今。当社の場合は特に、第3セクターという事業体にあり、これを無視し、スルーすることはできません。とはいえ、私たちが地域に提供している光サービスは、単なる通信業ではなく、サービスを通じて人々の生活を豊かに、かつ便利にするもの、そして安心をお届けするものでもあります。地域に根ざし、持続的なサービス提供が可能で、盤石な経営が求められます。

『つなぶっく』実施の背景には『社のイメージUPに繋げ、同業他者との差別化を図る』こと、賛同企業を集めた背景には『事業拡大・サービス拡大や、企業・事業所のサービス加入契約、自社番組のCM契約へと繋げる』という意図があったことは否めません。どちらか一方ではなく、この天秤が釣り合った状態を、社内外に認めてもらうことが大切だと思っています。

賛同頂いた企業のほとんどが、特典のCM目当てではなく、プロジェクトの趣旨自体に共感頂いたことが判りました。また、実施した小学校からは、本の寄贈だけではなく、子どもたちが選書会や紙芝居鑑賞を体験できたことへの感謝のお声も頂戴しています。

『つなぶっく』は市内の全小学校で実施することを目標にしています。活動を続ける中で『私たちは地域社会において、このような素晴らしい活動を行っているんだ』と当社社員が胸を張って言え、この会社で働いていることを誇りに思える気持ちへと繋がればいいな…とも思っています。